

挨拶



会長就任のご挨拶

会長 二宮 博 正

このたびは本学会会長に選任されその責任の重さに身の引き締まる思いですが、会員の皆様や理事の方々のご協力の下に本学会の発展に微力ながら全力で対応する覚悟ですので、宜しくお願い申し上げます。

さて、プラズマ・核融合学会は本年でその発足から30年を迎えます。本学会は、「プラズマ」という学術的なキーワードと「核融合」という固有の目的を表すキーワードを掲げ、この両者をいわば縦糸と横糸として交差させる学術活動を支援・発展させてきた我が国でも特徴ある学会かと思えます。この特徴を生かしつつ本学会を活性化させるために今まで多くの会員の方々が努力されてきたわけですが、それらを踏まえつつ本年度特に力を入れて取り組みたいこととして、「プラズマ基礎・応用分野の活性化」、「核融合工学分野の活性化」、「社会とのかかわりの強化」を最近の流行に沿って三本の矢として挙げたいと思えます。

「プラズマ基礎・応用分野の活性化」につきましては、2011年の Plasma Conference で、本学会年会、応用物理学会プラズマプロセッシング研究会、物理学会領域2 秋季大会の合同開催を実現するとともに多くの関連学会の協賛をいただき、新たな協力が始まりました。この連携・協力を大切にしつつ、将来性や発展性がある新しい学問分野の開拓等を通して本学会に研究者を引き付けより活性化させていく努力をしていきたいと思えます。

核融合研究開発は、現在 ITER 計画や幅広いアプローチ活動等が進展しており、今後原型炉に向けた超伝導工学、材料工学、原子炉工学等の工学技術開発の重要性が一層高まると思えます。しかし、本学会の年会を見ても工学分野の発表は少ない、また参加者が少ないと活発な質疑応答ができないためさらに発表・参加者が少なくなるという負のスパイラルに落ち込んでいるように思われます。「核融合」が一つのキーワードである本学会において工学分野は重要な分野であり、年会プログラムや学会誌編集の工夫等を一つの手始めとして「核融合工学分野の活性化」に努力していきたいと思えます。

社会とのかかわりににつきましては、福島原発の事故等を契機に科学技術の社会に対する責任はますます大きくなっています。核融合エネルギー開発においても、社会の理解と支援なしに推進することはできません。また、社会との対話を通して、私達自身も自らの活動を位置づけていく必要があると思えます。本学会もこれまで以上に社会との対話に力を入れていくとともに、啓発活動を一層活発なものにしていきたいと思えます。この啓発活動には、会員の皆様のボランティア的支援を得ていく努力を続けるとともに、シニア会員の皆様のご協力をより強く得ることができる仕組みも検討していきたいと思えます。

現在本学会の財政状態は非常に厳しい状況にありますが、上に掲げた三本の矢を中心とする学会活動の活性化はこの問題の解決にも貢献すると思えます。学会活動の活性化は今まで多くの議論や試行が繰り返されてきた古くて新しい課題ですが、ここで改めて皆様のご協力を得て議論・遂行し、本学会のアイデンティティを高めて活動の活性化に繋げていきたいと思えますので宜しく申し上げます。